

島根県の地震

平成31（2019）年1月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

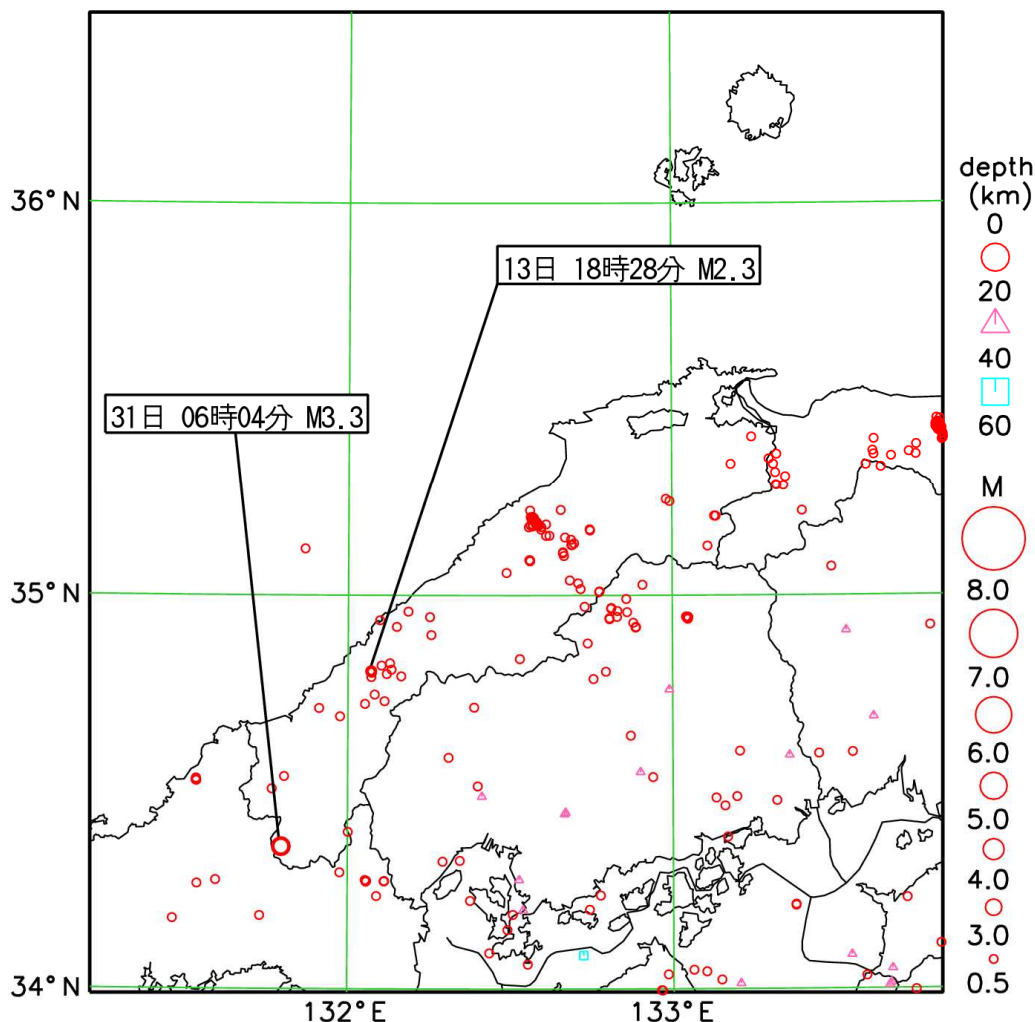
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2019年1月1日～31日

2019 01 01 00:00 -- 2019 01 31 24:00

N=262



[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は262回（12月は240回）でした。

また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、4回でした。

3日18時10分 熊本県熊本地方の地震（深さ10km、M5.1：地図範囲外）により、浜田市・益田市・吉賀町で震度1を観測しました。また、熊本県和水町で震度6弱を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度5弱～1を観測しました。

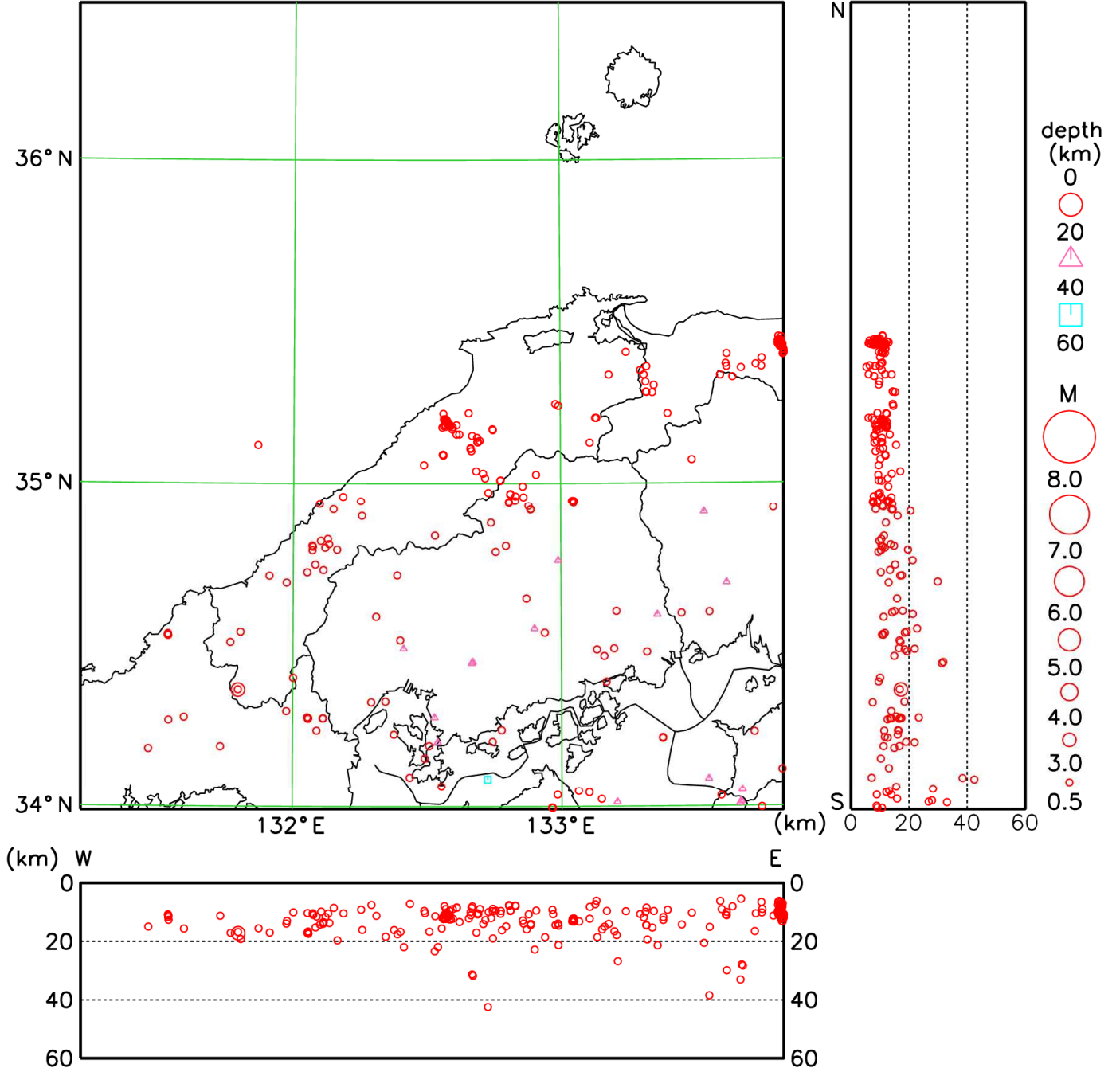
8日21時39分 種子島近海の地震（深さ30km、M6.0：地図範囲外）により、大田市で震度1を観測しました。また、宮崎県、鹿児島県で震度4を観測したほか、中国・九州地方で震度3～1を観測しました。

13日18時28分 島根県西部の地震（深さ11km、M2.3）により、浜田市で震度1を観測しました。

31日06時04分 島根県西部の地震（深さ17km、M3.3）により、吉賀町で震度1を観測しました。

[断面図]

2019 01 01 00:00 -- 2019 01 31 24:00



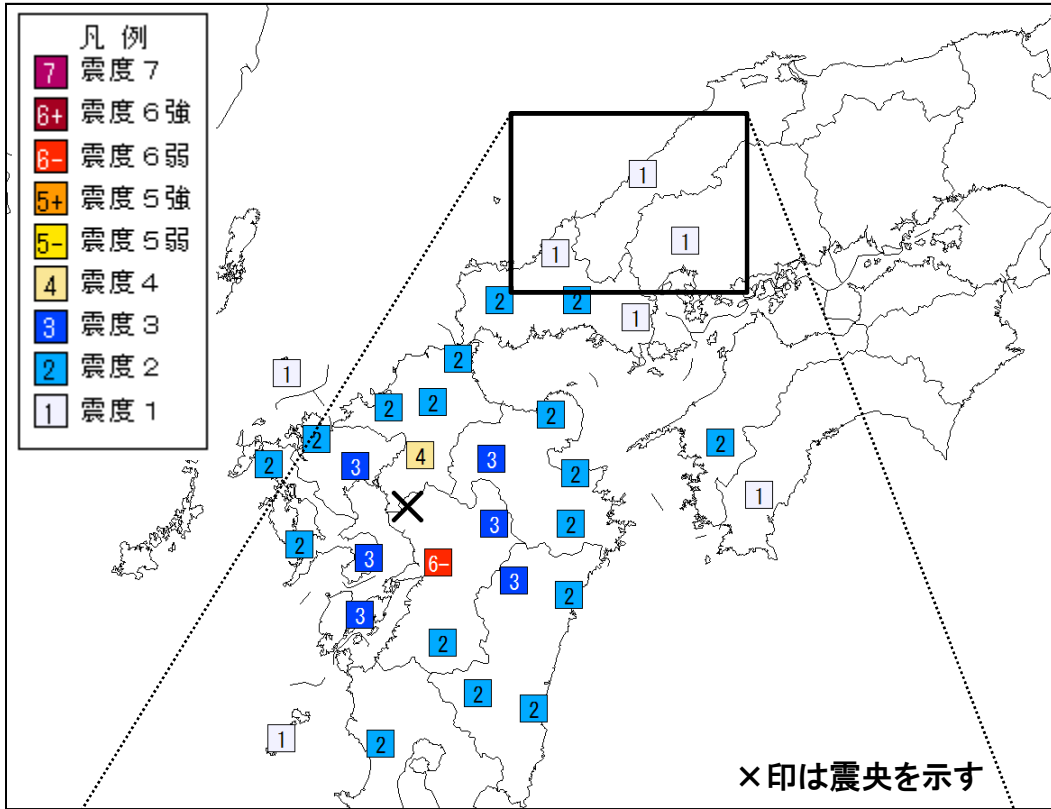
1月の島根県内の地震表（震度1以上）

発震日（年月日時分） 各地の震度（島根県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019年01月03日18時10分 ----- 地点震度 ----- 島根県	熊本県熊本地方	33° 01.6' N	130° 33.2' E	10km	M5.1
震度 1：浜田市三隅町三隅*，益田市常盤町*，吉賀町六日市*					
2019年01月08日21時39分 ----- 地点震度 ----- 島根県	種子島近海	30° 34.3' N	131° 09.8' E	30km	M6.0
震度 1：大田市仁摩町仁万*					
2019年01月13日18時28分 ----- 地点震度 ----- 島根県	島根県西部	34° 48.4' N	132° 04.2' E	11km	M2.3
震度 1：浜田市三隅町三隅*					
2019年01月31日06時04分 ----- 地点震度 ----- 島根県	島根県西部	34° 21.6' N	131° 47.7' E	17km	M3.3
震度 1：吉賀町六日市*，吉賀町柿木村柿木*					

・地点名の後に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

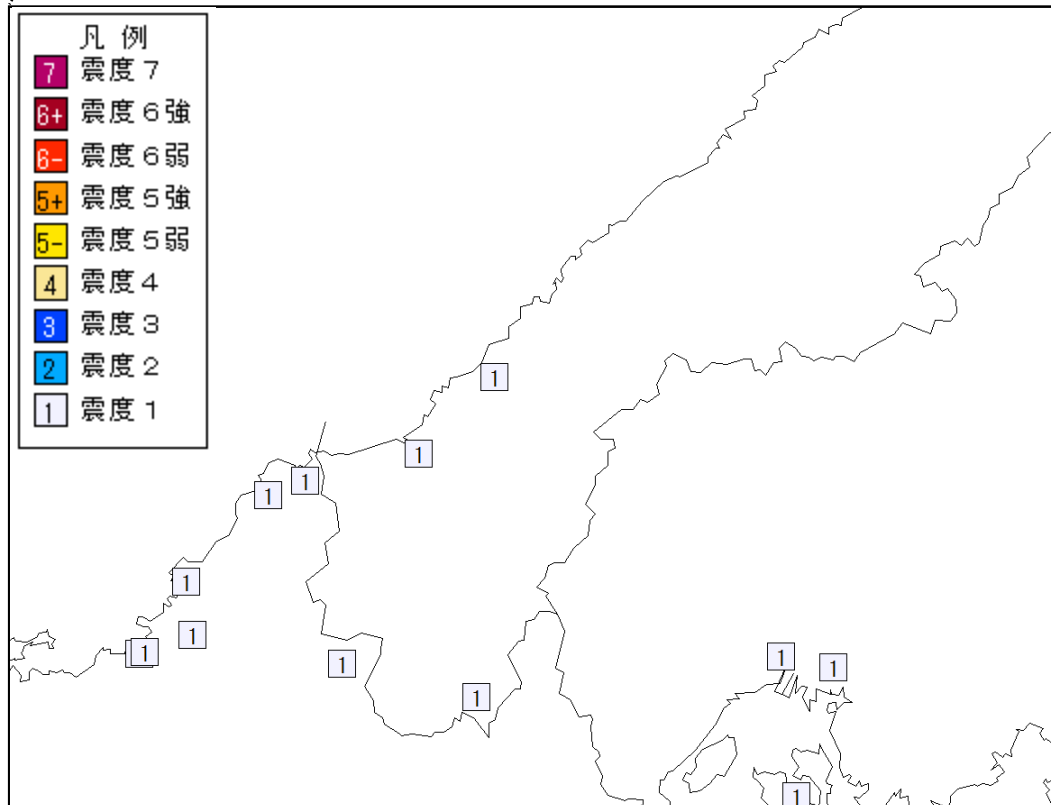
【地域震度分布図】

2019年1月3日18時10分 熊本県熊本地方



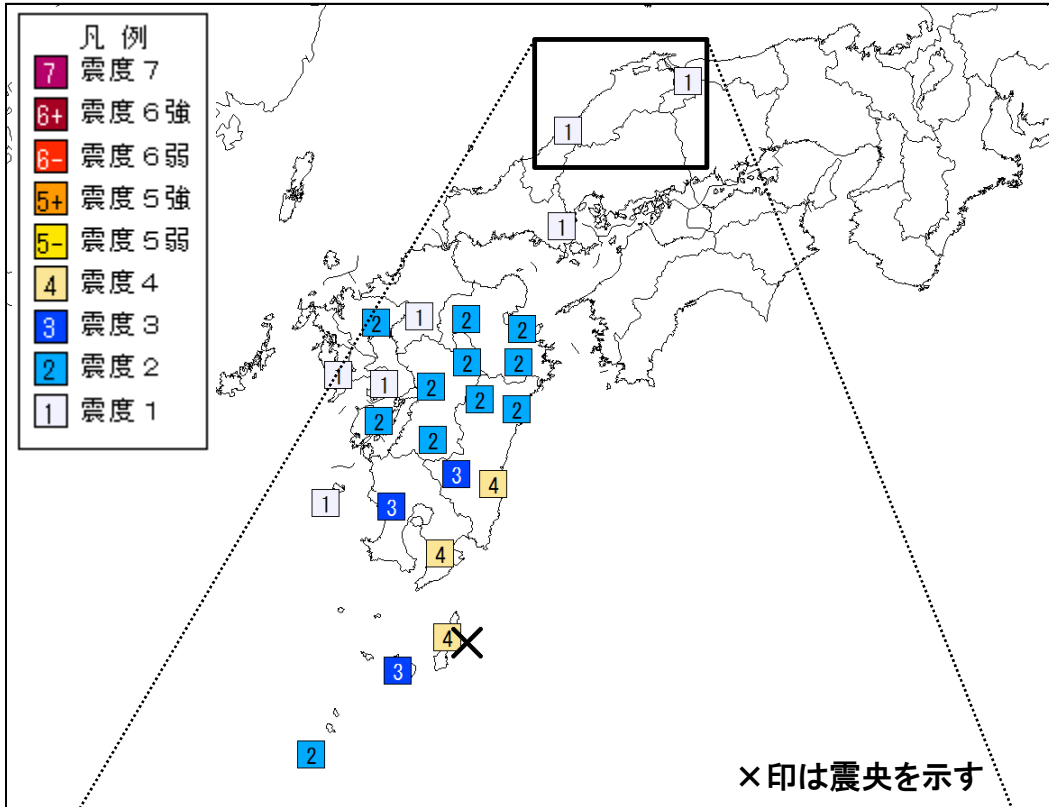
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



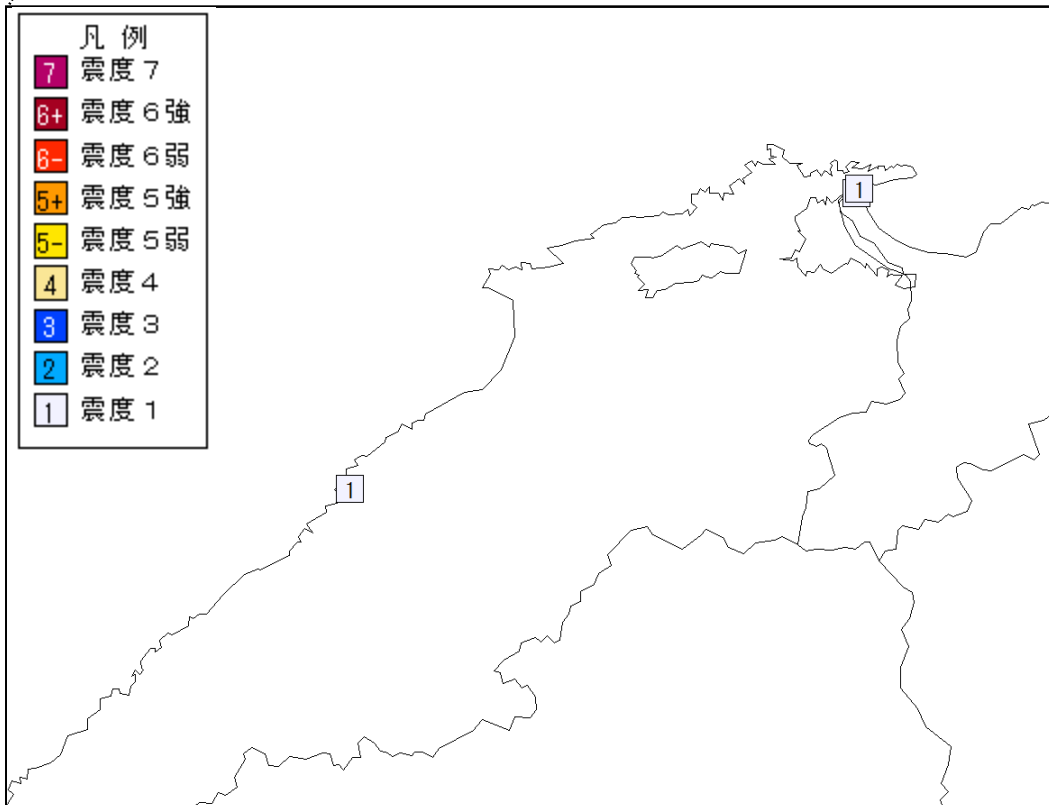
【地域震度分布図】

2019年1月8日21時39分 種子島近海



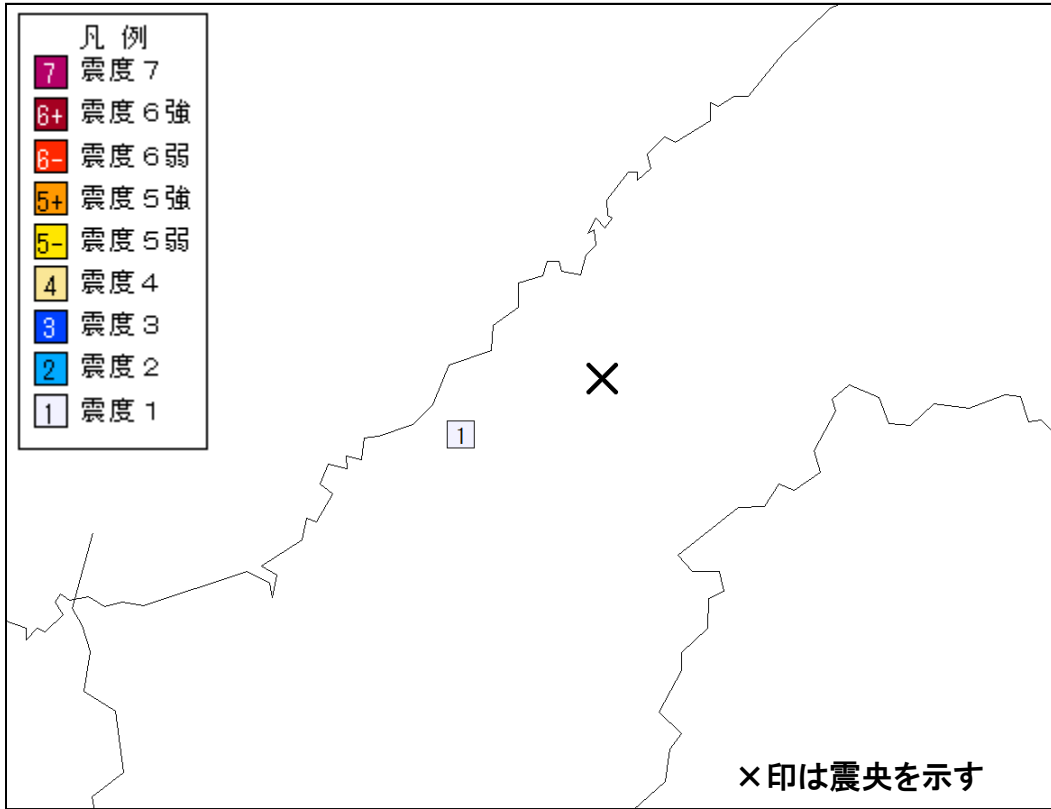
【観測点震度分布図】

地域震度分布図枠内拡大図



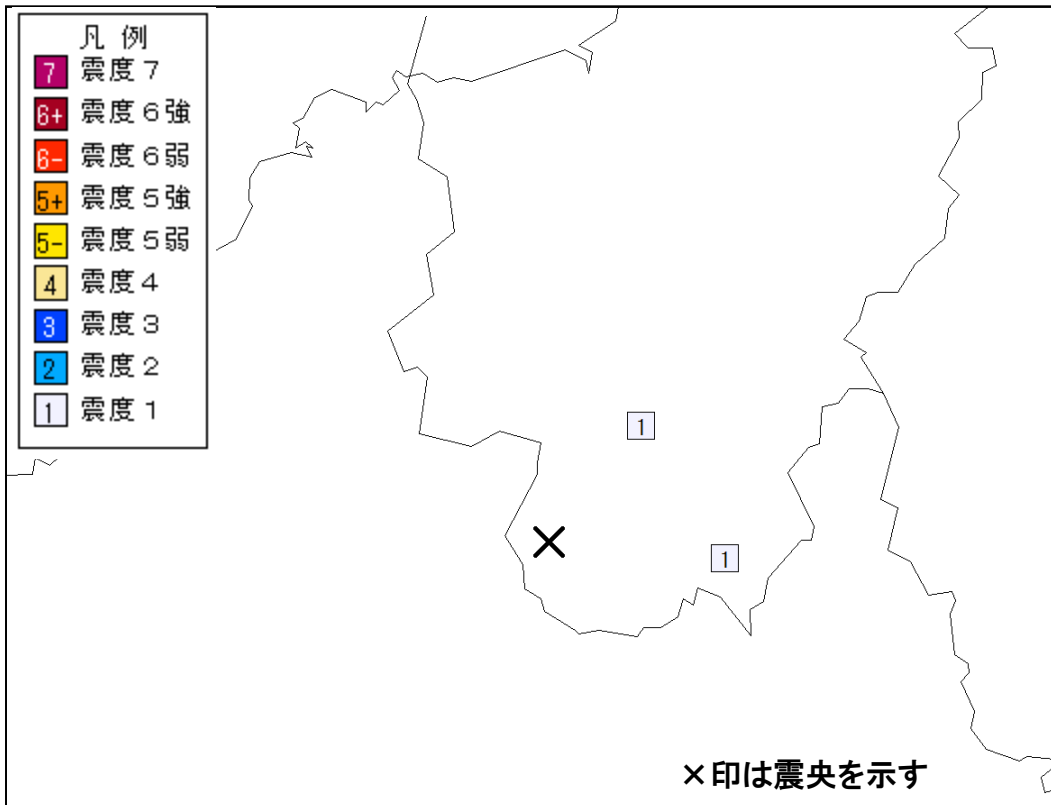
【観測点震度分布図】

2019年1月13日18時28分 島根県西部



【観測点震度分布図】

2019年1月31日06時04分 島根県西部



大規模災害時のやむを得ない車中泊への備えについて

いつ、どこで起こるか分からないのが地震です。突然大きな地震に襲われ被災した場合、車中泊を余儀なくされることがあるかもしれません。

平成 28 年（2016 年）熊本地震（以下、熊本地震という。）では、地震活動による家屋倒壊の恐れや避難所生活のストレス、ペットがいるなどの理由から車内に寝泊りしながら避難生活を送る方が多数おられました。狭い車内で寝泊りするなどの避難生活を続けると血行不良のため、エコミークラス症候群になる危険性が増すといわれています。毎日新聞（平成 30 年 1 月 4 日）によると、熊本地震による直接的な死者は 50 名ですが、その 4 倍にあたる 200 名の方が震災に関連して亡くなり、そのうち 59 名の方が因果関係は不明ながら車中泊の経験があったとされています。

車中泊については、車中泊避難者の状況が把握できない、物資や食料の配給などの支援が困難になるなどの問題が熊本地震の被災自治体から指摘されています。

今後、大規模災害が起きれば、プライベートの確保や様々な理由により必然的に車中泊を選択する人が多くなる可能性があります。いつ、どこで地震に遭遇するかわかりません。そのときの状況によって、やむなく車中泊になることを考えてエコミークラス症候群の予防方法を知っておく、車中泊マットなどの防災用品を車内に準備しておくなど、もしもの時の備えが大切です。

エコミークラス症候群の予防のために（厚生労働省ホームページより引用）

【エコミークラス症候群とは】

食事や水分を十分に取らない状態で、車などの狭い座席に長時間座っていて足を動かさないと、血行不良が起こり、血液が固まりやすくなります。その結果、血の固まり（血栓）が血管の中を流れ、肺に詰まって肺塞栓などを誘発する恐れがあります。

【予防のために心掛けると良いこと】

予防のためには、

- (1) とくどき、軽い体操やストレッチ運動を行う
- (2) 十分にこまめに水分を取る
- (3) アルコールを控える。できれば禁煙する
- (4) ゆったりとした服装をし、ベルトをきつく締めない
- (5) かかとの上げ下ろし運動をしたりふくらはぎを軽くもんだりする
- (6) 眠るときは足をあげる

などを行いましょう。

予防のための足の運動



【出典】

「平成 28 年度避難所における被災者支援に関する事例等報告書 平成 29 年 4 月」（内閣府）

<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hinanjo/index.html>

「深部静脈血栓症/肺塞栓症（いわゆるエコミークラス症候群）の予防について」（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121802.html>